特定非営利活動法人
環境パートナーシップいわて ニューズレター
URL http://iwate-eco.jp/
第20号 | 発行日：平成２４年３月３１日 | 会員数：１３８（内訳　個人９３、市民団体１６、事業者団体２０、行政機関９）

ご案内

平成24年度通常総会のご案内

特定非営利活動法人　環境パートナーシップいわて通常総会

日時　平成24年6月24日（日）
場所　岩手県民情報交流センター（アイーナ803）
　　盛岡市盛岡駅西通1丁目7−1（問合せ　019-681-1904）

受付	13:00〜
市民提案プロジェクト	13:30〜15:00
通常総会	15:10〜16:30
懇親会	16:40〜17:50

会費　2,000円（予定）

自主事業募集中

（市民提案プロジェクト）●現在、自主事業応募は以下の通りです。

①海岸林復興支援セミナー
②緑のカーテンプロジェクト
③マイバッグキャンペーン
④キャンドルナイト
⑤アイーナ夜学
⑥我が家の防災出前教室

●自主事業は総会前プレゼンが行われた後、採択されます。

第2回 エコリフォームセミナー開催！

24年度「いわて森のゼミナール推進事業」企画提案が採択されました。

「いわて森のゼミナール推進事業」は、児童･生徒をはじめ広く県民に対し、森林･林業への理解を深めていただく機会を提供するものであり、「森林学習会」等の業務を行うものです。

この事業は「いわて森林づくり県民税」を財源とし、県と受託者との協働事業により行うものであります。

震災復興支援紹介 PART①

遠野エコネットは、平成5年に任意団体として設立し、一昨年にNPO法人化した市民環境団体です。これまで、遠野市内にて多様な環境保全活動を展開してきましたが、ここでは昨年の震災発生以後の被災地支援の取り組みをご紹介致します。

2週間後にやっとガソリンが…

震災発生直後は、車の燃料が調達できないことから、支援に行くにも動きがとれず、一番支援が必要な時期に何もできず、情けない気持ちになりました。2週間後にやっとガソリンが調達できるようになり、「遠野まごころネット」の一員として、被災地に物資を運びながら御用聞きを始めました。その後はこれまでのエコネットでの活動を活かし、薪風呂の提供、種や苗とプランターの配布、菜園作りなどを、多くの団体と協力し合いながら行ってきました。

世界に誇れる町をつくれないか

私が被災地のあまりに変わり果てた姿を目にし、呆然としながらも考えた事は、「世界に誇れる町をここにつくれないか」ということでした。そのイメージは、三陸の豊かな自然と共存する1000年先も通用する町です。現在の世界が抱えている問題を克服し、世界のモデルとなる町（里）づくりができないか。そのために世界の叡智を集める場を作れないかと考え、賛同者に呼びかけて実行委員会を発足し、昨年12月に**「三陸エコビジョンフォーラム」**を開催しました。この詳細は、以前にもこの通信で紹介いただいていますので省略します。

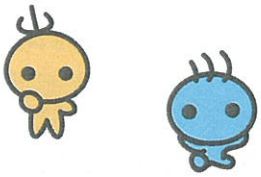
エコビジョンフォーラム以後は、具体的なモデルとなる里づくりに向けて、活動を継続しています。現在は、昨夏に地域の子供達と**「50年後の未来のふるさとを描く」**というワークショップを開催した大船渡市の碁石地区にて、被災者の高台移転や移転後の被災跡地の活用などを考える復興協議会に参加し、この地区が一つのモデルケースとなればと思っています。具体的には、エコビジョンフォーラムで講師をお願いした日本大学教授で、世界のエコビレッジ研究者である糸長浩司氏他研究室の方々に協力をいただき、高台移転に関する聞き取り調査を行いながら、単なる移転ではなく、コミュニティーを大切にしながら、**自然と共存できる持続可能な形での里づくりができるような取り組み**が始まっています。

吉里吉里国の方々と

この他、薪風呂の設置から縁が続いている大槌町の吉里吉里地区で、林業を中心とした地域の復興活動を展開している「吉里吉里国」の方々の活動も、何らかの形で支援を継続して行こうと考えています。この地域の保育園を森の中に建設する計画が進んでいるので、「吉里吉里国」の方々と共に、自然体験ができる森づくりができたらと考えています。

これからの支援は、心のケアと共に、このような町（里）づくりの支援が重要になると思います。この機会に、三陸が自然と共存するモデル地区となるように、多くの団体が知恵を出し合い、ゆるやかなネットワークを作りながら進めて行ければいいと感じています。

NPO法人遠野エコネット　千葉　和　記



激動の一年

この度の東日本大震災で犠牲となられました多くの方々に、深く哀悼の意を捧げます。また、大震災で被災した皆様に心からお見舞いを申し上げます。

時の経つのは早く東日本大震災から１年経過しました。誰もが経験したことのない巨大津波により沿岸部の街並みや生活は一変し、私の携わる建設業も激動の一年となりました。

私は宮古市（旧新里村）で建設業を営んでいます。地域に必要とされ、地域に貢献できる会社を目指してきました。その想いの中で盛岡と宮古を結ぶ国道106号及び三陸を縦断する国道45号の主要な道路の維持業務を請け負ってきました。

立ち入り禁止処置

地震直後の津波警報に伴い、維持業務に従事する社員は津波浸水地域への立入禁止処置を行いました。しかし津波の被害が甚大であり命がけの作業となりました。道路も通信手段も寸断され被害の状況すら掴めない状態でした。時間が経つにつれ見たことのない光景や映像が断片的に伝わり、その中で逸早く道路管理者と協議し、危険な状態ではあるけれど翌日から道路を通行できるよう啓開作業（※１）を行うことを決断しました。

翌日からの啓開作業は、津波警報が続けて発生する状態であり、作業員は極度の緊張と不安の中での作業でした。それに加えバックホー等の機械を使用しましたが、路上に積みあがった瓦礫の中に、行方不明者がいる可能性があったため、瓦礫の除去には通常の倍以上の時間をかけて慎重に行うという過酷な作業でした。

過酷な条件の中で

さらに実際の作業では重機類の燃料や作業員の食糧の確保にも悩まされました。翌日の燃料の確保で精いっぱいな状態であり、食料も地域の方の支援を受けて調達し炊き出しを行い各作業箇所へ毎日届けていました。

このような過酷な条件の中で建設業者が初期啓開作業を行えたのは、１人でも多くの人を助けたい、１日でも早くこの地域を復興させたいという強い想いだったと思います。それ以降も各市町村等の関係機関からの応援要請に応え、さらに自衛隊との協同による行方不明者捜索を行うなど震災発生後しばらくの間、地域のために不休で作業を続けてきました。今現在は応急～本復旧作業を進めています。しかし、建設業者に対する世間の評価は思ったよりも低く、我々の活動はあまり知られていないのが現実です。

地域のために貢献

それでも我々は、今後も災害が発生した場合には、地域のために逸早く駆けつけ、尽力する所存です。それが、地域に必要とされ貢献できることでもあり地元業者の存在意義はそこにあると思うからです。

これからも復興に少しでも貢献できるよう努めていきたいと思います。

※1　啓開作業…あまりにひどい被災で道が瓦礫などでふさがってしまったとき、その瓦礫を取り除き最低限度のルートを確保すること

刈屋建設株式会社　向井田　岳　記

いわて復興の姿（ビジョン）を求めて

北欧のエネルギー政策視察研修から

急がれる災害復興だが、3,11時点で岩手は持続可能な社会だっただろうか。環境の大切さを語ってきた者として、復興後こそ環境と心の豊かさが共存する岩手であってほしいと願う。そんな思いから昨年11月、2週間ほどかけて環境先進国のデンマークとフィンランドを取材しました。

エネルギーについて

初めに訪ねたのは「デンマークという国、自然再生エネルギー先進国」（合同出版）の著者、ケンジ・ステファン・スズキさん（デンマーク在住 44 年）が主宰する「風のがっこう」。デンマークのエネルギー政策等について4日間（夜９時半まで講義）みっちりと研修を受けた。

世界最大のバイオガスプラント

デンマークでの講義風景

持続可能な社会の決め手は食料とエネルギーの完全自給

原発追放でもエネルギー自給率155%
総電力の約3割が再生可能エネルギー

デンマークのエネルギー政策の基本は「エネルギー源の分散」「省エネ」「再生エネルギーへのシフト」だという。1972 年のオイルショック時、エネルギー自給率２%だったが、政策の転換で 2005 年には自給率 155%を超え、エネルギーの輸入国から輸出国へと変貌した。ちなみに日本のエネルギー自給率は４%。まったく持続可能ではない。しかもデンマークでは総電力の 30%がすでに再生可能エネルギーだという。

表① 再生可能なエネルギーの内訳

再生可能エネルギー資源別の供給割合（電気+給湯）			
廃棄物	34.0%	木材・廃材等	29.0%
風力発電	20.0%	麦藁	17.0%
バイオガス	0.4%	その他・熱ポンプ	0.5%

出所：Energistatstik,Oct2004から算出

再生可能エネルギーの資源別に、電気＋給湯（暖房）への供給割合（表①）を見ると、一番が廃棄物の焼却、2 番が木材・廃材などの木質バイオマスの焼却、3 番目に風力発電、４番が麦藁の焼却である。

廃棄物（可燃ゴミ）と木質バイオマス系の焼却で約 8 割のエネルギーを得ていることに驚く。木材をウッドチップにし、混ぜて燃やして発電しているのだ。日本では可燃ゴミは重油を使って処分している。利用か、処分か、は持続性において大きな違いだ。

岩手でもつくりたい ウッドチップと 可燃ごみの発電所

森林率 14%のデンマークで出来て、森林率 77%の岩手でなぜできないのか？

木は再生する資源なのでデンマークではマキストーブも普及している。

岩手でも県産材の活用促進と合わせて、木材をもっと発電やエネルギー源として活用することが“持続可能な岩手”につながると思う。

ウッドチップと 可燃ごみの発電所

廃材や木材をウッドチップにして可燃ゴミと一緒に燃やし、発電と地域暖房をおこなっている。

これを遠野など木材供給地につくればエネルギー自給と合わせてガレキ処理も進むのではないか。

いま日本で問題になっているガレキ処理は、デンマークなら放射能も検知されていないのでエネルギー源として有効に利用されるという。

デンマークの教育目標 〝行動力ある市民〟 を育てる

ごみ利用の体験学習

家庭ごみは電気と熱になることをしっかりと教えていた。

デンマークの環境教育の目標は「生態系における人間社会の問題として捉え、環境教育の中では、環境破壊、資源の分配と利用、動植物の根絶問題に対して熟知した行動力のある市民の教育を目標とします。」と宣言し、“環境を熟知した行動力ある市民”を育てることを目標にしている。

数々の調査で「世界一幸せ」とされる国をつくっているのは、行動力ある市民であり、NGO、協同組合など市民組織が“実行している”からだと知った。さらにその市民を育てている“教育”が大きな役割を果たしていると知った。

流域思考で 持続可能な 岩手を

フィンランドは原子力発電が大きな役割をしめているが、自然エネルギーでは水力発電が盛んであった。

岩手には森が有り、川が有り、海が有る。この流域の特長を生かした“流域思考”をもって、“環境を熟知した行動力ある市民”のひとりとして、暮らしていきたいと思った。

一般社団法人いわて流域ネットワーキング　代表理事　内田　尚宏　記

緑のカーテンプロジェクト

“宇宙を旅したアサガオ種子２代目”がＪＡＸＡ（宇宙航空研究開発機構）からＮＰＯ自然環境復元協会に譲与され、その内 2500 粒が岩手県立大学に贈られたのは昨年６月。この種子から育てたアサガオを仮設住宅の環境改善と心の潤いを与えたいとの志を同じくする人達によってプロジェクトは結成された。主な構成員：自然環境復元協会・環境パートナーシップいわて・小岩井農牧（代表・野澤日出夫特別顧問）・岩手県立大学（副代表・平塚明教授）・Asia Environmental Alliance（ＡＥＡ）・日本ビオトープ協会ほか。

この事業は平成 23 年度総会において活動提案され、自主事業として採択された。

設置支援先は、予算の関係もあり釜石市中妻町仮設住宅団地（118 棟 118 戸）及び大槌町大槌仮設住宅団地（9 棟・45 戸）の二つのエリア（事業費総額 46.6 万円・内自主事業費 36 万円）。

種子の入手時期が遅れたことから設置が遅くなったが、アサガオの播種、育苗、現地との調整や設置作業、その後のフォローから撤収まで遠野まごころネット及び釜石市ボランテイアセンターからのボランテイア始め、多くの方々の協力により行われた。特に釜石地区においては地域の方々で“あさがおネットワーク”が立ち上がり全面的な協力を戴き、その後も常時仮設住宅を回って「お困り事相談」などを続けている。またアサガオ撤収後はプロジェクトメンバーのＡＥＡが秋の草花と春に向けたスイセンを植えて好評を得た。仮設住宅住民アンケートから満足度は高く、次年度も設置して欲しいとの希望は92%となり平成24年度も実施に向けて活動を開始している。ご協力頂ける方は下記にご連絡下さい。

代表　野澤　日出夫　記
（noz0304awa@koiwai.co.jp 019-692-5826）

アクリルたわし れいんぼう大作戦

メンバー：ちーむ・れいんぼう（センタースタッフ、センターボランティア&環パイ関係者）
目的：アクリルたわしの普及、被災地支援事業

沿岸のおばちゃんたちの斬新な配色のポップアート系のお魚、内陸ボランティアの精巧な編み込み模様の葉っぱ。シンプルなもの、ちょっといびつなもの。みんな、みんな心を込めて編んでくれたものばかりでした。そんなたくさんのお魚と葉っぱを組み合わせて、ラップして、箱詰めして発送。また、大きな袋にいれて、行商。

お陰さまで、目標額を上回る支援金が集まり、関係団体に支援金としてお渡しすることができました。

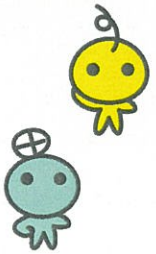
この事業を支援していただいた皆様、ボランティアの皆様に感謝申しあげますとともに、引き続きのご支援を、お願い申し上げます。

田近　志保子　記

成果

避難所（大槌３回、山田２回、盛岡４回）、仮設住宅（宮古２回、野田村１回、陸前高田２回）、その他（遠野２回、盛岡２回、奥州１回）で計 19 回たわし講座を開催した。

- 4月26日／大槌町臼澤伝承館
- 5月3日／遠野まごころ広場
- 5月6日／大槌町臼澤伝承館
- 5月16日／大槌中学校広場
- 5月22日／山田町役場前
- 6月3日／ホテル森の風
- 6月17日／ホテル森の風
- 6月29日／長栄館
- 7月6日／雫石プリンスホテル
- 9月15日／宮古水産高校グランド仮設住宅
- 10月18日／野田村観光協会（苫屋）
- 11月6日／盛岡肴町でのイベント
- 11月11日／宮古近内雇用促進住宅（仮設住宅）
- 11月23日／遠野フォーラム
- 11月24日／陸前高田米崎小仮設住宅集会所
- 12月6日／陸前高田市米崎小仮設住宅集会所
- 12月20日／陸前高田市米崎中仮設住宅集会所
- 1月14日／山田町仮設住宅個人宅
- 1月23日／盛岡松園 個人宅



3R推進フォーラム

テーマ「レジ袋どこまで本気!」

平成24年2月6日(月)13時30分～
盛岡市総合福祉センター

レジ袋削減を広める県民会議

●千葉　芳幸氏（盛岡市環境部長）
現在、盛岡市レジ袋辞退率は40%ほどである。レジ袋は、ゴミの分別、減量、3R推進、温暖化防止を考える起点として有効な取り組みになると考えている。事業者、消費者団体との話し合いも3年前から進めている。県全体で進めるのがベターであるのかということも含め消費者、事業者の考え方を調べて進めるというスタンス!!

●吉田　將次氏（盛岡市きれいなまち推進協議会事業部会長）
盛岡市では、平成17年度から平成22年度でゴミは約17,500t減りました。レジ袋有料化する前に市民運動をもっと活動するべきである。

●鈴木　茂伸氏（イオンリテール㈱東北カンパニー総務部）
イオンのエリアは47都道府県中30都道府県でレジ袋の無料配布を中止している。ここ岩手県の盛岡でも、レジ袋辞退者には2円引きということでお金を戻している。それでも辞退者は50%ちょっとまでしか上がっていない。

●伊藤　慶子氏（岩手県消費者団体連絡協議会事務局長）
このまま石油製品に自分たちの生活を委ねていって大丈夫なのか?レジ袋についても皆でキチッと考えていく時期なのだと、本気でやらなければいけない時期だということを痛感いたしました。

●高橋　求　氏（岩手県地球温暖化防止活動推進員）
1月15日～17日東京都と千葉県、神奈川県に行ってまいりました。その時夜の東京などのスーパー、コンビニ等でレジ袋の状況はどうなっているのだろうかと注視してまいりました。東京は日本の人口の1割が住んでおりますが、結論として千葉県、目黒、新宿、小田原を見てまいりましたが誰一人としてマイバッグで買い物をされている人はいなかったという状況でした。

渡邊　彰子　記

●マイバッグ講座

●マイバッグコンテスト表彰

●マイバッグ展示

アイーナ夜学　「地球1個分の生活」の提案

アイーナ夜学（夜学）では「地球1個分の生活」をめざして毎月1回、環境にやさしい地域づくりに関する勉強会を行ってきました。24年4月でこの勉強会は、72回目になりました。

この「地球1個分」の言葉は、エコロジカル・フットプリント（ＥＦＰ）という考えから出てきたものです。ＥＦＰとは、ある地域に住む人間生活が原因となって、その地域の植物資源をどの程度踏みつけているか、「足跡の面積」を示すものです。その面積が、地域に存在する植物の面積を超えると、地域から排出したCO_2を酸素に換えることができません。CO_2がどんどん蓄積していくことになります。ＥＦＰによると、現在の日本人の生活を人類が全員行うと、地球が３個分ほど必要だと言われております。日本人の生活はクールで、外国のあこがれの的のようですが、今の生活パターンでは持続可能ではなく、いつの日か大々的に改善が必要なのです。

では、どこをどう改善したらよいのでしょうか。買物袋、ワリバシ対策はもちろんですが、問題は地球３個分となってしまう生活の全体です。しかし、今すぐ自動車をやめよう、冷暖房を使うな、森林増やせというわけにはいきません。こうした生活全体は、システム論という考えによると、一見無関係に見える物事が全部つながっているからです。このため、せっせとワリバシを節約しても、業務では毎日、車を長時間運転せざるをえない人もおります。非常に複雑な構造になっています。

この問題に取り組むために、夜学ではまず、複雑な生活パターンを評価するために「ハカローくん」という装置を開発しました。ハカローくんは誰でも経験している生活体験を素材に、生活全体の環境負荷を推定する計測器です。もちろん誤差は多いです。とはいえ特徴的な生活パターンで「地球の必要個数」がわかります。同時に、何を改善すれば地球１個の生活になっていくか、気付かせるしくみ持っています。

ハカローくんは、複雑な生活システムを単純化して評価するので、誤差が大きく普及が難しいと思っていました。しかし24年５月に開催する「森と水と命の惑星国際会議」からお声がかかり、久しぶりに登場することになりました。夜学ではこれまで、「地球１個分のくらし」をめざし、街づくり、食生活、ビジネスのあり方等々、勉強会を重ねてきましたが、その思いを「ハカローくん」を通じて示すことができればと願っています。どうか、応援をお願いします。

佐藤　清忠　記

●ハカローくんの公開

会員だより

第11回りんごの花まつり

期日　5月20日（日）　時間　10:00～15:00
場所　うわのリンゴ園　岩手郡滝沢村滝沢大石渡21－2
問合せ　TEL&FAX　019－688－3535

学びからやさしい未来を　土日環境学習講座

期日　5月19日（土）　時間　13:30～15:00
場所　アイーナ5階環境学習交流センター
テーマ「パタゴニアの自然」
講師　梅野克雄氏（岩手県地球温暖化防止活動推進員）
5月1日～31日:パタゴニア写真展開催

期日　6月2日（土）　時間　13:30～15:00
場所　アイーナ5階環境学習交流センター
テーマ「今までの家づくりと岩手の〝省CO_2型復興住宅〟」
講師　長土居正弘氏（「エコ・ハウスコンテストいわて」事務局長）

2012緑のフェスティバル・みどりと水と食の祭典

「大震災からの復興、安心な未来を」

期日　5月20日（日）　時間　10:00～15:00　小雨決行
場所　盛岡市中津川河川敷（中ノ橋下流）
（内容の一部）
　苗木500本無料配布
　エコカーゴ（出張環境学習会）
　みどりのカーテンプロジェクトいわて
　アコースティックライブ光（10時半～11時）
問合せ　みどりを守り育てる岩手県民会議
　　電話0198-62-2670　小原事務局長

ビオトープフォーラムin盛岡 2012

期日　6月8日（金）　時間　13:15～17:00
場所　岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1
　　岩手県民情報交流センター（アイーナ）5階会議室
協力　岩手県立大学、岩手・木質バイオマス研究会他
プログラム（予定）
第1部　第4回ビオトープ顕彰
　「日本ビオトープ大賞」表彰式
　受賞作品発表・事例発表
第2部　特別講演
（1）三陸復興と自然再生
　平塚明氏　当協会特別会員
　　岩手県立大学総合政策学部教授
（2）地域活性化のための木質バイオマスエネルギーの活用と森林保全（仮題）
　伊藤幸男氏　岩手大学農学部共生環境課程助教
　岩手・木質バイオマス研究会代表
入場無料

～わたしの一言～

3月11日　祈りの灯火が東日本大震災から1年目のこの日、岩手県内で約2万灯、岩手城跡公園中央会場で1万灯が灯され、いわて夢灯り協議会としても鎮魂の意を込めて灯すことができました。

夢灯り協議会とは、アルペンスキー世界選手権大会を期に組織され、かんたんに作れる石粉粘土での夢灯りを考案し、色々な場で作り灯された20年。今回は特にエコということで牛乳パックで作られ本当の意味で共に希望を抱き心がひとつになった祈りの灯となり継続できることに感謝しています。

小赤澤直子

編集後記

3.11から1年3か月がたちました。

先日ある震災復興フォーラムで氷上太鼓のイベントがありました。太鼓に参加されたほとんどの方々（10人）が被災され、思いを太鼓にそれを我々に表現してくれました。太鼓の余韻が冷めやらぬ中、代表の方が…仮設はあくまでも仮設…今の現実を是非!見ていただきたいと私たちに涙ながら声高らかに訴えておりました。

瓦礫の処理1つを取ってもなかなか進んでおりません。今私たちに何ができるのか皆さんの目でこの現実を確認していただければと思います。環パいのニューズレター「被災地支援」の中で皆さんと共有していきたいと思っております。

発行：NPO法人 環境パートナーシップいわて
事務局〒020-0124 盛岡市厨川5-8-6　TEL:019-681-1904（直通）FAX:019-681-1906
e-mail　kanpai@utopia.ocn.ne.jp
環境学習交流センター・岩手県地球温暖化防止活動推進センター
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7－1岩手県民情報交流センター・アイーナ5F
TEL:019-606-1752　FAX:019-606-1753